http://decfamily.p1.bindsite.jp/2018/

We 35R

No.460　19/01/11

「PATH」の贈ることば

年末に配布した進路通信「PATH」を読み返していると、君たちに贈ったことばには、担任それぞれの個性がよくあらわれているように思う。

＊

31R担任の文章は、学年主任だけあって、３年間をともに過ごしてきた君たちへの愛情が感じられる内容であると同時に、「私の生き方」が前面に出ていて、「いかにも」といった感じである。

32R担任は、さすがに勝負の世界に生きただけあって、その勝負の経験から会得した神髄をさりげなく伝えている。２年半前の君たちの「熱い眼差し」の記憶は、同時に彼の熱い眼差しを想起させるだろう。

33R担任のワンダーフォーゲル部の話は、具体的でかつ感動的である。遙か遠くに思える山頂も、確実な一歩一歩で征服することが可能になるのだというメッセージは、まさに今の君たちへ応援といえるだろう。

34R担任は、３年間英語を通じて君たちと過ごしてきた思いを、ズバリ英語のメッセージに託してくれた。運の助けなど必要のない実力を、すでに君たちが身につけていることを再確認させてくれる。

36R担任の文章は、さすが担任団最年長者としての重みを、いや、その重みを通り越した境地としての「軽み」（芭蕉の最高概念）さえ感じさせるものである。まあしかし、彼はマラソン派であろう。

37R担任は、やはり追い込み科目の担当だけあって、最後まで学習に対するアドバイスを与えてくれている。その期待に応える追い込みを、君たちみんなに期待したい。

生徒のことをよく見ている38R担任の文章は、やはり生徒との関わりを述べたものであった。常に君たちのことを見守り、君たちの一言一言を大切にしてくださったことがよく分かる文章である。

＊

ところで、35R担任の文章はどうか。

ちなみに言い訳をしておくと、ご存知のようにあの通信は私が３年間担当してきた。そのため、今回も、他の７名の先生方の文章をレイアウトした後、余ったスペースに合うように書いているのである。当然、締め切りを守ってくれる担任ばかりではない。最後の原稿が集まったのは、君たちの渡した日の朝である。だから、限られたスペースに、限られた時間で書かざるを得なかったのである。というわけで、「ずいぶん短いじゃないか」とか「内容が薄いのではないか」とかいったご批判は、どうかご容赦願いたい。

しかし、今、自分で読み返してみると、なかなか含蓄に富むのではないかと、自画自賛（自我爺さん）しているところである。

①と③は、35Rの諸君の今後の予想される結果に関して（汗）、「何も落ち込むことはない」と伝えているのである。ははは…。そして②は、そろそろ生活のリズムを整えなければならないというアドバイスである。実にバランスよく、この時期に必要なことを言い尽くしているのではあるまいか。か？

しかし、真のメッセージは③’「後悔先に立たず」である。後悔なんてしたくない！そんな思いで、日比谷での残りの日々を、次の日々へと結びつけてほしいものだ。